

今月の管内農業情報(田原農業改良普及課)

[2019年2月15日]

1月の農業情報

タイトル 悪天候を乗り切った輪ギク栽培の技術を普及

とき 平成30年12月

ところ 田原市内ほ場

主体・対象 JA愛知みなみ輪菊部会(761名)

内容

第40回田原市・JA愛知みなみ電照ぎくほ場共進会が開催され、小中山町の小川宗俊氏が第1席となった。定植時期の9月から厳しい気象条件が続いたが、小川氏は、キクの生理生態に合わせてきめ細かく管理し、その影響を最小限に抑えた。農業改良普及課では、上位入賞者の栽培事例を産地にフィードバックし、栽培技術の向上を支援する。

定植直後の9月は曇雨天が続いたことにより日照不足で、また、生育期の11月以降は日中の気温が高く徒長しやすい条件だった。このため、例年に比べて茎が細いほ場が多く見受けられた。

小川氏は、キクに均一に光を当てるためベッドをかまぼこ型に作り、9列のネットのなかで3列は空けることで畝の内側まで光が入るようにした。また、開花までハウスの内張を使用せず、日中の側面換気に努めたことで徒長を防いだ。さらに光合成促進のため、11月上旬から12月上旬まで、日中炭酸ガスを1時間あたり15分間施用した。

農業改良普及課は、輪菊部会が主催する年3回の栽培講習会を通して栽培技術向上を支援している。今後、部会員に今回の上位入賞者3名の栽培管理のポイントを周知し、冬季開花作型の品質向上を推進する。



小川氏ほ場にて、審査する様子